

1. 本執筆要項は、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリの年報である『GRL Studies』の原稿の執筆に関連する事項について定める。

2. 提出の形式

- (1)提出は、Word ソフトによる原稿が望ましい。
- (2)ページ数は挿入しない。
- (3)和文横書き、1 ページ 40 字×30 行で作成する。
- (4)要旨

3. 文体およびフォント

- (1)文体は原則として常体（である、だ）とする。
- (2)フォントは、和文は MS 明朝、欧文は Times New Roman を用いる。
- (3)本文の文字サイズは、11 ポイントとする。注は 10 ポイントとする。タイトルは 12 ポイントとする。
- (4)和文字は全角、算用数字・アルファベットは半角とする。
- (5)和文の箇所においては、引用箇所等を除き、和文記号（、。「」『』（）等）を使用する。
（cf. 欧文記号（, . “ ” ‘ ’ « » 等）、敬体（です、ます））

4. 本文

- (1)原稿は、以下の構成とする。
 - タイトル（日英両方）（副題をつける場合には左にダッシュをつける。英文タイトルはサブタイトルの前にコロンをつける）
 - 氏名（日英両方）、所属・身分（職位）
 - 目次（目次をつけない原稿はこの限りではない）
 - 本文
 - 謝辞（必要な場合のみ）
 - 注
- (2)本文を区別する場合は、章は 1.、2.、3.、… その下の区分は（1）、（2）、（3）・・・の順に表記する。

5. 図版・表など

その時私は、*****

**。

*****と考えた（鹿野 2005: 36）。
（一行あける）

8. 文献リストについて

(1) 参考文献記述の原則

参考文献は論文末尾にリストを記載する。和文・欧文の文献も含め、著者の姓のアルファベット順にリストアップする。

本文中で言及した文献は、すべてを文献リストに記載しなければならない。また、文献リストに記載された文献は、かならず本文中に対応する文献注がなければならない。

ひとつの文献についての書誌情報は改行を入れず、続けて入力し、2行目以降は全角で3スペースをあける（字下げ、ぶら下げ）。

同じ著者の文献を複数記載する場合、2目以降は著者名ではなく「———」（4倍ダッシュ）を用いる。出版年の早いものから順に記載する。

《例》

【単著本】

江原由美子、2001『ジェンダー秩序』勁草書房

Scott, Jean Wallach, 1988, *Gender and the Politics of History*, New York: Columbia University Press.

【共著本】

大越愛子・志水紀代子・持田季未子・井桁碧・藤目ゆき、2001、『フェミニズム的転回——ジェンダー・クリティークの可能性』白澤社

Roberts, Marie Mulvey and Tamae Mizuta, 1994, *The Campaigners : women and sexuality*, London: Routledge/Thoemmes Press.

【編書】

中村桃子編、2010、『ジェンダーで学ぶ言語学』世界思想社

Stanton, Elizabeth Cady, Susan B. Anthony and Matilda Joselyn Gage eds., 1969, *History of woman suffrage*, New York: Arno Press.

【編書論文】

青山薫、2025、「セックスワーカー」とはだれか——グローバルな性取引の構造と経験」

山根純佳・丸山里美編『岩波講座 社会学 第5巻 ジェンダー・セクシュアリティ』岩波書店、23-48

Winterburn, Emily, 2022, “Astronomy, Education and the Herschel Family: From Caroline to Constance”, Claire G. Jones, Alison E. Martin, Alexis Wolf, *The Palgrave Handbook of Women and Science since 1660*, Cham: Palgrave Macmillan, 247-268.

【雑誌論文】

Hooks, Bell, 1986, “Sisterhood: Political Solidarity between Women”, *Feminist Review*, 23: 125-138.

池田弘乃、2023、「結婚でないもの」とは何か、『法と哲学』(9)：120-143

【翻訳論文・翻訳書】

Bersani, Leo, 1987, “Is the Rectum a Grave?”, *October*, 43 (AIDS: Cultural Analysis/Cultural Activism): 197-222, The MIT Press. (酒井隆史訳、1996、「直腸は墓場か？」『批評空間』2期(8)、太田出版、115-143)

Foucault, Michel, 1976, *La volonté de savoir*, Paris: Éditions Gallimard. (渡辺守章訳、1986、『性の歴史 I ——知への意思』新潮社)

【政府刊行物・調査報告書】

内閣府男女共同参画局、2025、『男女共同参画白書 令和7年版』

釜野さおり・石田仁・岩本健良・小山泰代・千年よしみ・平森大規・藤井ひろみ・布施香奈・山内昌和・吉仲崇、2019、『大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生に関するアンケート報告書（単純集計結果）』JSPS 科研費「性的指向と性自認の人口学—日本における研究基盤の構築」・「働き方と暮らしの多様性と共生」研究チーム(16H03709)、国立社会保障・人口問題研究所

【ウェブページなど】

名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ、2025、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリホームページ（2025年7月25日取得、<https://www.grl.kyodotokyo.ac.jp>）

以上